

今年の夏は史上最も暑くなる！？

～2016年 職場の熱中症対策の実態調査～

塩分・水分摂取の具体的なルール作り、8割以上で実施されておらず
27.4%が「自社で熱中症対策の教育・指導が全く行われていない」と解答
暑さ指標「WBGT」は、未だ半数以上に認知が進んでおらず

安全靴や作業着等を販売する通販サイト ミドリ安全.com（<http://midori-anzen.com/>）では、「安全」「衛生」に関わる職務に携わっている計500名の方を対象に、職場での熱中症対策の実態に関するアンケート調査を2016年5月に実施しましたので、その結果を発表いたします。

国内の熱中症での死亡者数は1994年以降増加傾向にあり、昨年7月の熱中症で緊急搬送された人数としては、2008年の統計開始以来、過去最多の24,567人を記録しました。米国航空宇宙局（NASA）の発表によると、2016年は史上最も暑い年になるとも予想されており、職場での熱中症対策も早めの対策が肝心です。ミドリ安全では、この度の調査結果を踏まえ、職場の熱中症対策を前進させるため「測る・冷やす・摂る」をキーワードに啓蒙強化に努めてまいります。

<結果概要> (n=500)

【TOPIC①】職場の熱中症対策指導状況に関して

「毎年定期的に熱中症対策の教育・指導が実施されてる」58.4%

「教育・指導が何も行われていない」と回答した方は**27.4%**

【TOPIC②】「暑さ指標（WBGT指標）」の認知と活用度

4人に1人は「暑さ指標（WBGT）」を知っており業務に活用していると回答した一方、

55.8%の方が「WBGT」を全く知らない・あまり知らないと回答

【TOPIC③】職場で行われている具体的な熱中症対策

行っている熱中症対策「水分摂取」72.4%、「周囲の環境を冷やす」67.2%、

「気温・湿度の測定」を行っているとは**46.4%**と半数以下

【TOPIC④】職場での塩分・水分摂取のルール作りに関して

「塩分・水分摂取の具体的なルール作りがされている」**16.8%**

「ルール作りも自主的摂取の促しもされていない」と回答した方は**17.8%**

「ルールはないが自主的に摂取するように促されている」という解答が最も多く59.8%

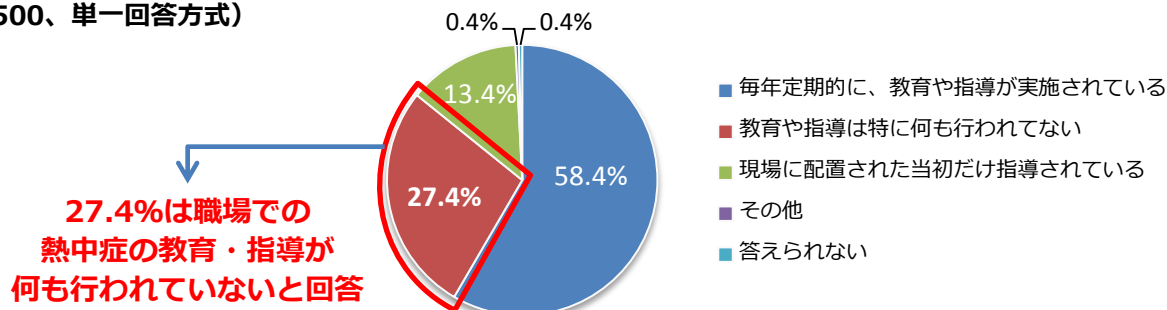
【TOPIC⑤】自分の会社の熱中症対策に関して

「熱中症になってしまった時の対応準備を職場でしていない」**17.8%**

「自分の職場の熱中症対策を充分だと感じていない」**28.8%**

あなたの職場における、夏場の熱中症対策についての教育や指導の状況をお答えください。

(n=500、単一回答方式)

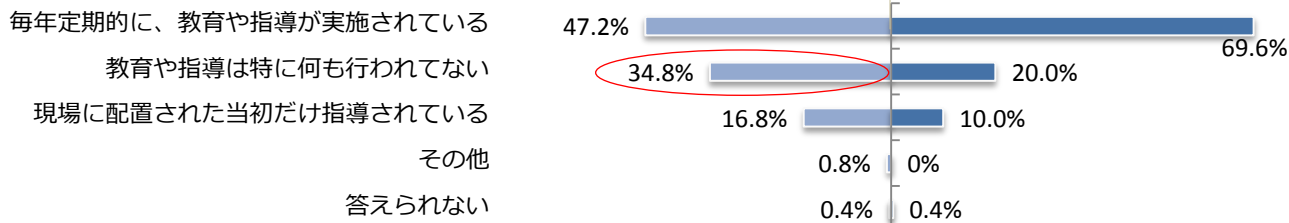


【TOPIC①】職場での熱中症の教育や指導

夏場の熱中症対策について、職場での教育や指導状況を聞いたところ、「毎年定期的に、教育や指導が実施されている」と解答した方が58.4%となった一方、「教育や指導は特に何も行われてない」と解答した方が27.4%にもものぼることが明らかとなりました。「現場に配置された当初だけ指導されている」と解答した方も、13.4%存在しており、熱中症に関しての教育や指導状況は、徹底されていないという現状がうかがえます。

事業場の人数による解答傾向

事業場の人数が50名以上：250名
事業場の人数が50名未満：250名



<事業場の人数別傾向>

50人以上の事業場で働く方と、50人未満の事業場で働く方の回答傾向を比べてみると、熱中症の教育や指導は50人以上の事業場のほうが定期的な実施率が高いことが分かりました。特に、50人未満の事業場の「教育や指導は特に何も行われてない」と解答した方は34.8%にも上り、小規模事業場の熱中症対策はあまり進んでいない現状も明らかになりました。

※「事業場」とは、工場や事務所、店舗など一定の場所での組織的な作業のまとまりのことを指します。同じ会社内でも場所が離れている工場は、別の事業場とみなします。

【TOPIC②】「暑さ指数（WBGT）」の認知と活用度

熱中症は気温だけでなく、湿度や周辺の熱環境などの指数が大きく影響を与えることから、厚生労働省では熱中症を予防するための「暑さ指数（WBGT）」を基準に各種対策を行うように発表しています。

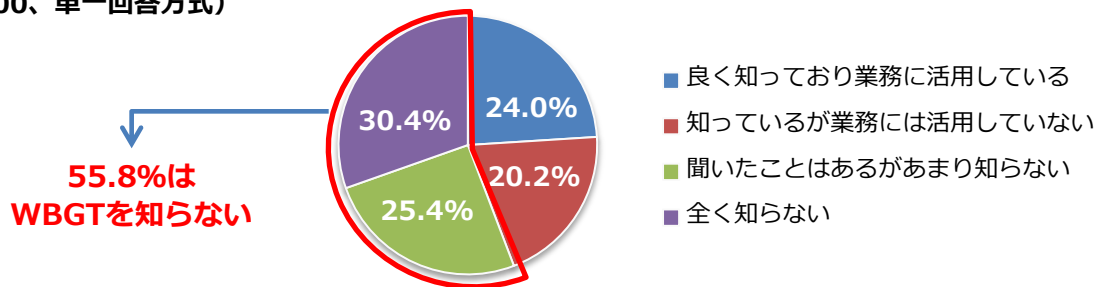
この「暑さ指標（WBGT）」がどれくらい職場で活用されているかを調査したところ、「良く知っており業務に活用している」と解答した方は、全体の4分の1以下に留まり、「聞いたことはあるがあまり知らない」もしくは「全く知らない」と答えた方は全体55.8%にも上る実態が明らかとなりました。

あなたは熱中症を予防することを目的とした「暑さ指数（WBGT）」をご存知でしたか？

※WBGT値とは、気温・湿度・輻射熱から導き出される暑さの指数のことです。

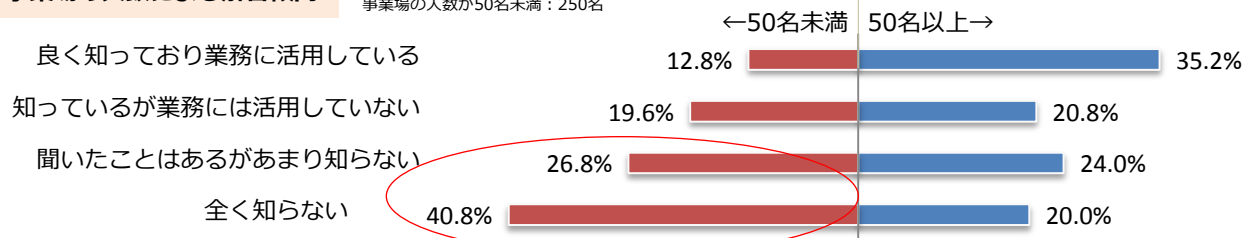
厚生労働省では、このWBGT値に基づき熱中対策を計画するように推奨しています。

(n=500、単一回答方式)



事業場の人数による解答傾向

事業場の人数が50名以上：250名
事業場の人数が50名未満：250名



50名未満の事業場ではWBGTを知らない割合は67.6%まで上がります

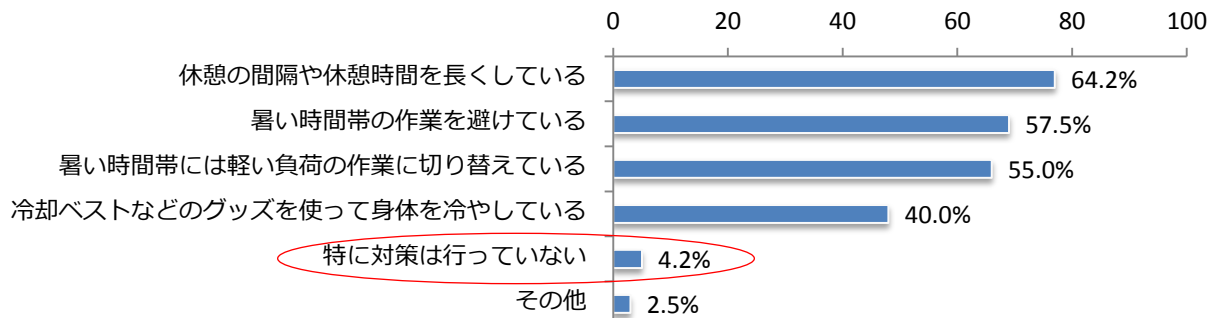
<事業場の人数別傾向>

事業場を50名未満と50名以上とで比べてみると、「暑さ指数（WBGT）」は50名以上の事業場で、より多く活用されている一方、50名未満の事業場では認知度も下がり、40.8%が全く知らないと解答するなど、事業場の規模と認知率が比例傾向にあることも分かりました。

あなたの職場では、WBGT値が高いときにどのような対策を行っていますか？

行っている対策を全てお答えください。（n=120、複数回答方式）

※WBGTを「良く知っており業務に活用している」と解答した120名を対象



「暑さ指数（WBGT）」を良く知っており業務に活用していると解答した120名へ、実際にWBGTが高いときにどのような対策を行っているか聞いたところ、「休憩の間隔や休憩時間を長くしている」と解答した方が64.2%と最も多く、次いで「暑い時間帯の作業を避けている（57.5%）」や「暑い時間帯には軽い負担の作業に切り替えている（55.0%）」という結果となりました。

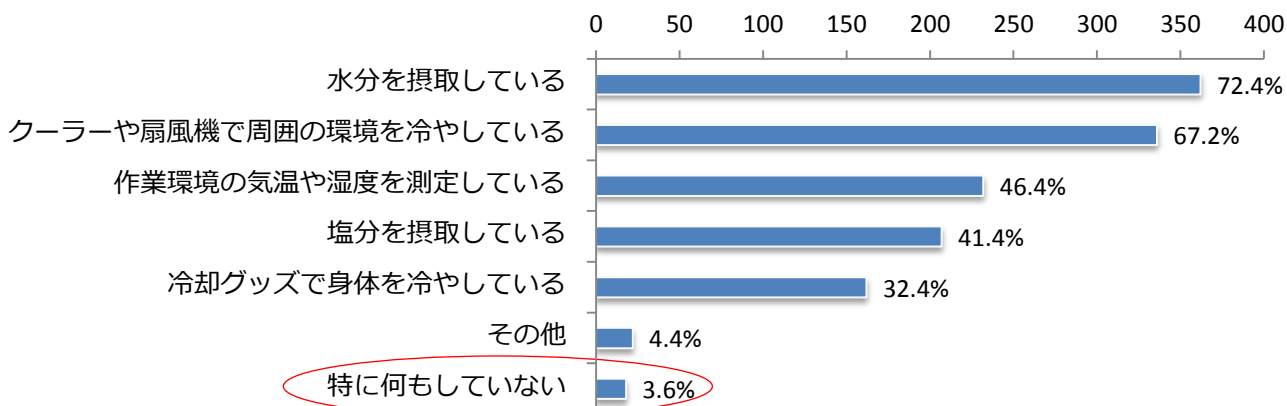
一方で「特に対策は行っていない」と解答した方も4.2%存在し、WBGTを測るだけで終わってしまっている方もいることが分かりました。

【TOPIC③】職場で行われている具体的な熱中症対策

あなたの職場ではどのような熱中症対策を実施していますか、という質問に対して、最も多かったのが「水分を摂取している（67.2%）」で、次いで「クーラーや扇風機で周囲の環境を冷やしている（67.2%）」、「作業環境の気温や湿度を測定している（46.4%）」、「塩分を摂取している（41.4%）」「冷却グッズで身体を冷やしている（32.4%）」などに解答が集まりました。

一方、熱中対策として「何もしていない」という方も**3.6%（18名）**存在しており、一部で対策がおざなりになっている現状が明らかとなりました。

あなたの職場では、どのような熱中対策を実施していますか。（n=500、複数回答方式）



※その他の熱中症対策（自由回答）

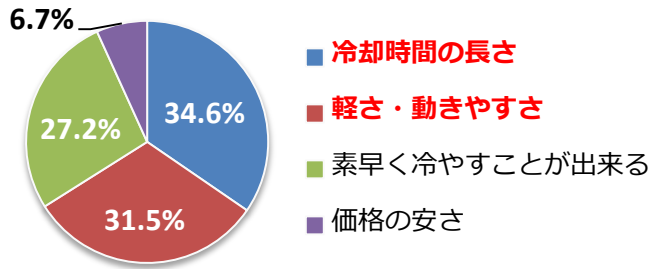
冷風機などをレンタルする、熱中対策水を配布している、梅干しを食べている、クールビズの推奨、声かけ、水分・塩分摂取の注意ポスターを掲示するも対策は皆無、時間内飲食禁止、クールビズ、暑熱順化トレーニング

*「暑熱順化（馴化）」とは、1週間～10日ほどの時間をかけ徐々に体を暑さに順応させ、暑さに強い体づくりをすることです。

■冷却グッズに求められるポイント

あなたが冷却グッズを選ぶにあたって、一番重要視していることは何ですか。（n=129、単一回答方式）

※熱中症対策として冷却グッズで身体を冷やしていると回答した129名を対象



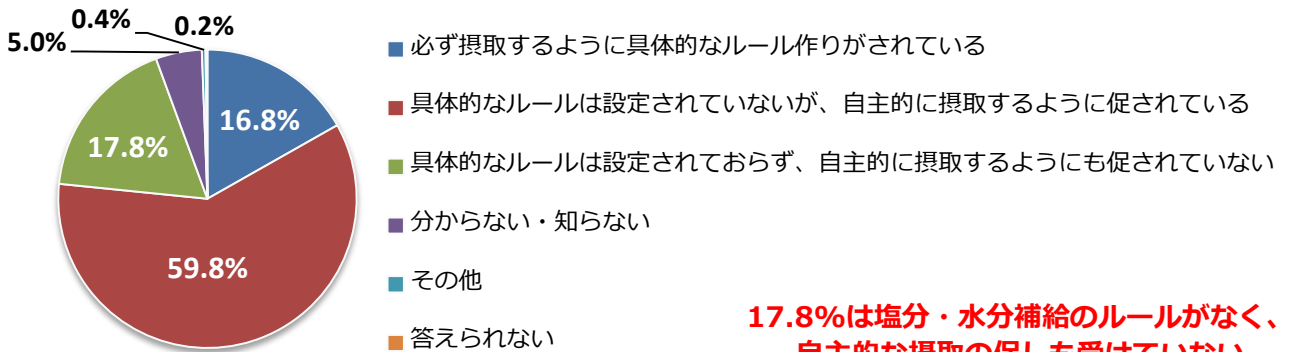
冷却グッズを選ぶ際のポイントは、「冷却時間の長さ」が34.6%で最多となりました。次いで「軽さ・動きやすさ」が求められています。

【TOPIC④】職場での塩分・水分摂取のルール作りに関して

厚生労働省では、熱中症対策として塩分・水分の補給に関してガイドライン（※1）を設定しています。そこで、職場でもこうした具体的なルール作りが実施されているかを聞いたところ、「具体的なルール作りがされている」と回答したのは16.8%にとどまり、6割近くが「ルールは設定されていないが、自主的に摂取するよう促されている」という現状が明らかになりました。また「具体的なルールも、自主的な摂取の促しもない」という方も全体の17.8%も存在することが分かりました。

（※1）「少なくとも0.1～0.2%の塩分濃度の食塩水、ナトリウム量が100ml当り40～80mgのスポーツドリンク、または経口補水液を20分～30分ごとにカップ1、2杯程度を摂取することが望ましい」（H21年厚生労働省発表「職場における熱中症の予防について」より）

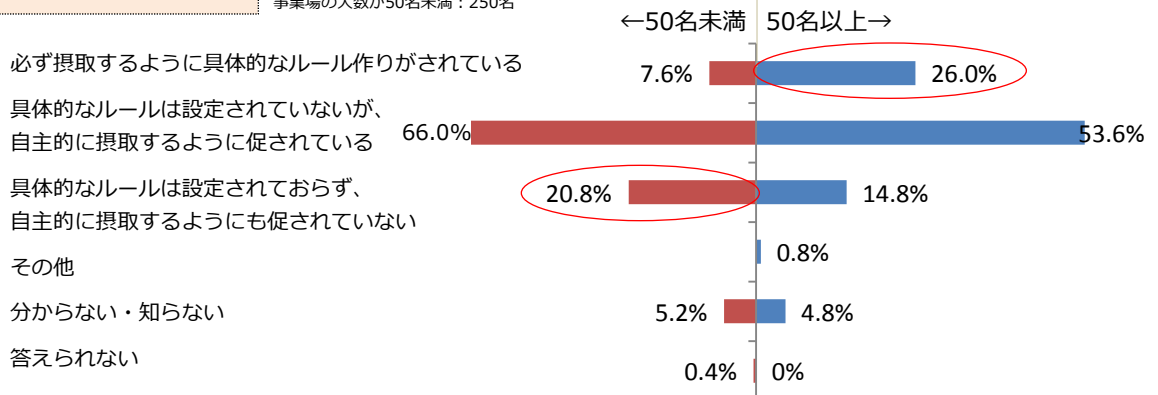
厚生労働省は塩分・水分の補給について明確なガイドラインを定めていますが、あなたの職場では塩分・水分等の摂取方法のルール作りはどのように実施されていますか。（n=500、単一回答方式）



17.8%は塩分・水分補給のルールがなく、自主的な摂取の促しも受けていない

事業場の人数による解答傾向

事業場の人数が50名以上：250名
事業場の人数が50名未満：250名



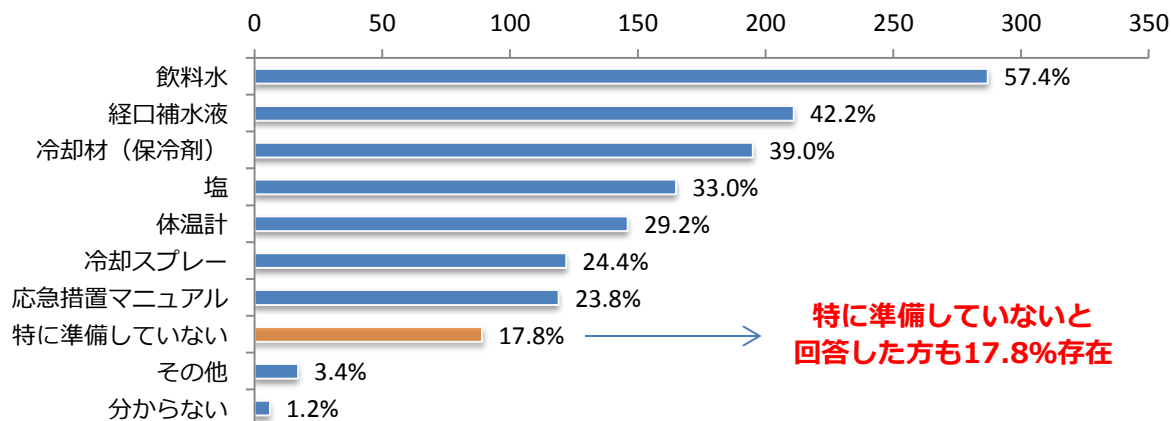
<事業場の人数別傾向>

50名以上の事業場では50名未満の事業場に比べて、具体的なルール作りが進んでいる一方、50名未満の事業所では、具体的なルールが設定されず、自主的に摂取するようにも促されていないと回答した方が多い傾向にあることが分かります。

■熱中症応急措置の準備

職場で実際に熱中症になってしまったとき、応急措置としてどのようなものを準備しているか聞いたところ、約6割が「飲料水」を準備しており、4割以上が電解質バランスなど熱中症対策に有効な「経口補水液」を準備していることが分かりました。一方で「特に準備していない」と回答した方も17.8%も存在し、熱中症対策が進んでいない実態も明らかとなりました。

あなたの職場では、熱中症になってしまった場合の応急措置として、どのようなものを準備されていますか。準備しているものを全てお答えください。（n=500、複数回答方式）

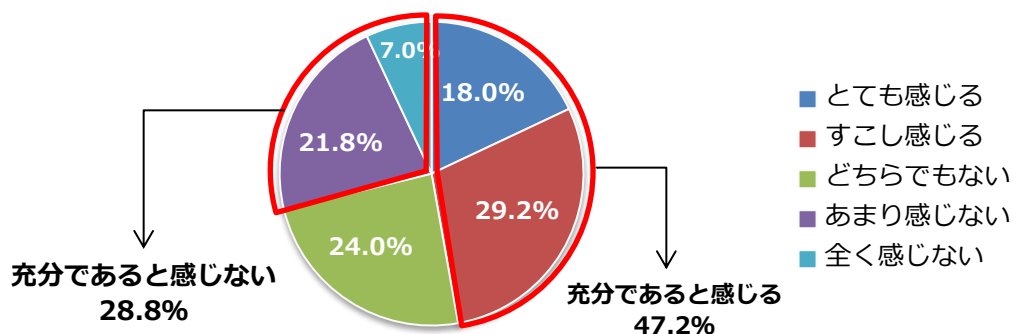


特に準備していないと回答した方も17.8%存在

【TOPIC⑤】 自社の熱中症対策は充分！？

職場の熱中症対策に関して、充分であると感じるか聞いたところ、「とても感じる」「すこし感じる」と答えた方は、全体の47.2%に及んだ一方、「あまり感じない」「全く感じない」と回答した方も28.8%存在し、職場の熱中症対策に関して4人に1人以上が充分ではないと感じているという実態が分かりました。

あなたの職場の熱中症対策は充分であると感じますか？（n=500、単一回答方式）



4人に1人は自社の熱中症対策を不十分と回答

<事業場の人数別傾向>

50名以上の事業場では充分だと感じるという方が58.0%であったのに対して、50名未満の事業場では36.4%と、事業場の人数が少ない（規模が小さい）ほど、自社の熱中症対策は不十分であると感じていることも分かりました。

<調査概要>

調査対象 東京都・埼玉県・大阪府・愛知県・神奈川県（※1）在住で、夏場仕事に汗をかくことがあるという方の中から、安全・衛生に携わる職務に携わっていると回答した男女500名を対象とした
有効回答数 500名（割付：50名未満の事業場に勤務する方250名／50名以上事業場に勤務する方250名）
調査期間 2016年5月25日～2016年5月28日
調査方法 インターネットリサーチ

（※1）2015年に熱中症で救急搬送された患者数上位5エリア

※本リリースによる調査結果をご利用いただく際は「ミドリ安全.com調べ」と付記のうえご使用くださいますようお願い申し上げます。

測る・冷やす・摂る で熱中症対策の正しい知識を啓蒙

当社では今回の調査結果を踏まえ、まだ認知度の低い「暑さ指標（WBGT）」の周知や、職場の熱中症対策をより分かりやすく啓蒙・強化できるよう、熱中症対策の重要なポイントとして「測る・冷やす・摂る」という3キーワードを掲げ熱中症対策の啓蒙を行っています。（<http://ht.midori-sh.jp/>）

測る

今回の調査では、「暑さ指標（WBGT）」そのものの認知が5割以下と低い状態であることが分かりました。熱中症は『温度』だけでなく『湿度』や『輻射熱（地面や建物・体から出る熱）』が重要な指数となります。特に湿度は温度の7倍もの影響度を与えることから、この3つの指標を元にした「暑さ指数（WBGT）」を測っていくことが、職場の熱中症対策として非常に重要となります。特に作業現場には様々な熱源があり、熱源からの輻射熱を正確に測ることが重要となります。WBGT計を選ぶ際は、輻射熱が直接測ることができる黒球付きのものをおすすめいたします。

■WBGTに関して（環境省）

http://www.wbgt.env.go.jp/wbgt_lp.php



“黒球付き”のWBGT計で
正しい暑さ指数を測りましょう

冷やす

熱中症対策には、身体の体温を冷やすことも重要となります。今回のアンケートでも冷却グッズを選ぶにあたって重視するポイントとして挙げられた『冷却時間の長い』タイプや『軽くて動きやすい』タイプなど、作業内容に合せた様々なタイプをご用意しております。



ドライクールベスト

水を注ぐだけの気化熱冷却式。何と8時間も効果が持続！



清涼ファン 風雅ボディ

送風ファンから直接風を衣服内に送って爽やかな装着感！



KNTベスト

冷凍庫不要のPCM冷却材を使用！保冷剤との併用で効果UP



爽快クールベスト

首まで素早く冷やせる保冷剤使用タイプ！



ピタッとアイスボディ

曲がる保冷剤で体にフィットし動きやすい。しかも軽量！

摂る

熱中症対策には水分補給だけでなく塩分の補給も非常に重要です。水だけを摂取することで更に熱中症を悪化させてしまう「自発的脱水」を防ぐためにも、水分と同時に塩飴やサプリメントを積極的に摂ることを心がけましょう。また、職場での明確な水分・塩分の摂取ルールを策定することも重要です。



ミドリ安全では上記商品の他、経口補水液や冷却スプレーがセットになった応急キットなど、様々な熱中症対策グッズを取り扱っています。

特設サイト「熱中症Labo」でも熱中症予防に役立つ情報を発信しています
<http://www.nettyuusyuu-labo.jp/>

【通販サイトURL】

- ミドリ安全.com
- 楽天市場
- Amazon
- DeNAショッピング
- Yahoo!ショッピング

<http://midori-anzen.com/>
<http://www.rakuten.ne.jp/gold/midorianzen/>
<http://www.amazon.co.jp/b?ie=UTF8&me=A37ETWJ1L678G7>
<http://www.dena-ec.com/user/23824472>
<http://store.shopping.yahoo.co.jp/midorianzen-com/index.html>

【読者・視聴者からのお問合せ先】
ミドリ安全.comコールセンター
URL: <http://midori-anzen.com>
TEL: 0120-310-355

【本プレスリリースに関する報道関係者からのお問い合わせ先】
ミドリ安全.com 古谷（ふるや）、染谷（そめや）
TEL: 03-5650-3236 FAX: 03-5650-3237
Email: info-ec@midori-grp.com